# 東雲便り

令和８年１０月２９日
江東区立東雲小学校
校長　水柿　隆
東雲小HP
http://shinonome-sho.koto.ed.jp/

## 「きく」ことからはじまる、こどもの心の成長

副校長 谷口　琢哉

朝夕の風にすっかり秋の深まりを感じる季節となりました。秋空のもと、こどもたちは日々の授業や様々な学習活動、直前に迫った運動会練習に生き生きと取り組んでいます。一つ一つ乗り越え、ひとまわりたくましくなったこどもたちの表情には、確かな成長の跡がうかがえます。

さて、この１１月は、気候的に落ち着いて過ごせる反面、行事と行事の狭間で日々忙しさを感じたり、ふと心に疲れが出て、小さな不安を感じたりしやすい時期でもあります。このような時期に、こどもたちの「自己肯定感」を育み、前を向く力を引き出すために、ご家庭でぜひ意識していただきたいのが「話の聞き方」です。

お子様が学校から帰ってきたとき、「今日は学校どうだった？」と尋ねる機会も多いかと思います。しかし、少し疲れているときなどは「普通」「別に」といった一言で終わってしまうことも少なくありません。

そこでおすすめしたいのが、**具体的な場面や感情に焦点を当てた問いかけ**です。

- 「今日、一番クスッと笑ったことは何？」
- 「今日の給食で、美味しかったものは何かな？」
- 「今日、友達とどんな話をしたの？」

このように、楽しかったことや小さな出来事にスポットを当てて尋ねてみると、こどもたちは、当時の気持ちを思い出しながら話しやすくなります。

そして何より大切なのは、こどもが話し始めたら手を止めて、目を合わせ、「それは面白かったね」「そんな風に感じたんだね」と、ありのままの気持ちを受け止めてあげることです。自分の言葉に耳を傾け、楽しそうに聞いてくれる大人がいるという安心感こそが、「自分は大切にされている」「このままで大丈夫だ」という自己肯定感の根っこを育てます。

日々の忙しい時間の中ではありますが、１日わずか数分でも、お子様との小さな会話の時間を楽しんでいただければ幸いです。学校とご家庭が温かい言葉でつながり、こどもたちの健やかな成長をともに見守っていけるよう、今月もよろしくお願いいたします。




（イラストは生成 AI に描いてもらいました）